

2024年度(総合型選抜)AO選抜入学試験

政策科学部「政策科学セミナー方式」

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻等	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
政策科学科・政策科学専攻	66名	25名	15名

(2) 本入学試験の目的

政策科学部では、解決が必要とされている政策課題に対して、実践レベルに踏み込み、よりよい社会を創造するための学びを展開しています。こうした学びにチャレンジする学生を求めていることから、入学時点において以下の学力、関心を有することを求めます。

- (1) 高等学校などの教育によって修得した基礎的な学力を有していること。
- (2) それらの知識に基づく問題解決のための思考や態度、能力習得に関心があること。
- (3) 広く社会的な課題の解決に向けた実践や構想に意欲があること。

これらのアドミッション・ポリシーに基づき、政策科学部の「政策科学セミナー方式」入学試験は、現代において解決が迫られている様々な政策課題に独自の関心を持ち、「政策実践力」と「政策構想力」を身につけるための基礎能力（理解力、表現力、論理性、独創性）に優れている人材を、広く全国から受け入れようとするものです。

2. 試験内容

(1) 第1次選考

政策科学部の「政策科学セミナー方式」の第1次選考は、書類選考および「政策科学セミナーⅠ」での講義に関するレポートを行いました。講義に関するレポートは、政策科学部教員が50分程度の講義を行い、20分程度の質問時間を経て、その後に講義内容に関する理解度や意見を問うレポートを60分で作成してもらうものでした。

2024年度AO選抜のセミナーテーマは、「格差社会の解決」でした。講義に関するレポートでは、本講義に関わる7つの問題を出題しました。

(2) 第2次選考

第2次選考は10分程度の個人面接および「政策科学セミナーⅡ」としてグループ・ディスカッションを行いました。グループ・ディスカッションは「格差是正のためには何をすべきか」をテーマとして、政策科学部教員の司会により第2次選考受験者からなるグループで60分程度行いました。

3. 出題の意図

(1) 第1次選考

書類選考では、政策科学部に志望する理由や入学後に学びたいことなどを記してもらったエントリーシートをもとに、学部への適性を見ることを目的としました。講義に関するレポートでは、講義内容への理解度、講義を踏まえた上で要因や問題点を論理的に説明できているかどうか、自分の考えを文章表現できているかどうか、英語力や統計資料を読み解く数的処理能力などを見ることを意図しました。

(2) 第2次選考

個人面接はエントリーシートをもとにして行い、志望動機や政策科学部に対する興味・適性を

応答により評価することを意図しました。グループ・ディスカッションでは第1次選考で説明された内容に基づいて論点の問題状況について整理・理解した上で自分の意見を論理的に説明できるか、論点の解決策・提案を論理的・客観的に表現できているか、多様な他人の意見を理解してそれらを踏まえながら議論を建設的に進めることができるかどうかを問うことを意図しました。

4. 評価のポイント

(1) 第1次選考

書類選考ではエントリーシートから大学入学後の学習意欲や関心等を測り、政策科学部への適性を評価しました。講義に関するレポートでは設問の解答状況により、講義内容に対する理解度、論理性、文章表現力、数的処理能力等を評価しました。

(2) 第2次選考

個人面接では政策科学部への志望動機や学びの関心度、興味などについて、応答から評価しました。グループ・ディスカッションでは第1次選考での講義資料や内容を踏まえた内容の発言ができてきているか、論理的・客観的な発言ができてきているか、独り善がりではなく他の人の発言内容も踏まえつつ発言ができてきているか、議論の流れや目的を意識した発言ができてきているかなどを評価しました。

5. 解答状況

(1) 第1次選考

エントリーシートには、大学入学後に何をどのように学びたいのか、それらを将来にどのように活かしたいのかについて、大半の志願者は政策科学部の教学内容と結びつけて記すことができました。

講義に関するレポートには7つの問があり、問1は講義の内容と関連する英語の文章の読解力を問うもの、問2、問3、問4は講義内の説明を正しく理解できているか、講義資料を正しく読み解くことができるかを確かめるもの、問5はフィリピンの格差社会の解決策の一つとして教育を挙げ、自身の意見を論述するもの、問6と問7は表を読み解き簡単な計算をすることで数的処理能力を問うものでした。合格者はおおむね講義内容の理解度が良好で、論理的な文章表現、データの理解などをかなりの確に行っていました。

(2) 第2次選考

個人面接は政策科学部への志望動機や入学後に学びたいことなどについて具体的かつ論理的に表現できているか、応答が的確になされたかどうかなどにより、評価にやや差が生じました。

グループ・ディスカッションは受験生を3つのグループに分けて行われましたが、受験生の多くは所定時間内で自分の意見を積極的に表明できていました。問題視すべき態度や発言等が見られない点でも評価できました。

6. 次年度の受験生へのアドバイス

人の話の内容や資料などが意味することを、できるだけ客観的かつ正確に理解できる力を持つよう努めてください。また、それらを正しく理解するだけでなく、同時に多角的視野から批判的に検討し、そこから自分の考えを論理的かつ建設的に積み上げていく力を身につけるよう、さらにはそれを適切な言葉で表現できるよう、日頃から心がけてください。

グループ内では、他の人の意見をよく聞き、それに対し適切かつ説得力をもって自分の意見を述べる力や、そこから議論をさらに展開させ、新たな解決策や見方を見出す力を養ってください。

政策科学は文理融合の学際的な学問です。そうした政策科学の学びの特徴をよく理解し、旺盛な好奇心と高い意欲を持って、広範な知識を習得することも心がけてください。

以上